

～はぐくみコース～

<はぐくみ賞 7団体>

- いのち紬ぐネットワーク Happy earth (はっぴい明日) (奈良) / 10万円  
「HAPPY BIRTH PROJECT！」

<p>団体概要</p>	<p>2007年に奈良県大淀町大淀病院からの母体搬送で母親が死亡した事故から、母親・助産師などが「安心してお産ができる奈良県にしたいの会」を立ち上げ、2012年にメンバーの顔が見える活動をとる理由で現在の名称に改名した団体である。「いいお産は良い子育てにつながる。いいお産は良い人生につながる」をテーマに、主に出産にスポットを当て、奈良県内で情報提供・勉強会・イベントなどを行っている。</p> <p>具体的な活動としては、妊娠・出産・子育てに関する勉強会、「いいお産の日 in なら」イベント、出産・育児に関する上映会などを開催している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>分娩施設のHPや情報開示欄には一定の基準がなく、イメージ先行で書かれていて本当の情報が得られないため、本事業は、分娩施設にWHOお産59カ条に基づいた独自のアンケート調査を行い、HPで情報公開する。また、調査結果をもとに、妊婦・産婦への勉強会に活かしメディアにも情報開示していく。</p> <p>医療者側の一方的な情報だけでなく、妊婦・産婦が本当に知りたい情報を開示してもらうことで、医療を受ける側が積極的に分娩・出産に関われるように啓蒙し、これから産む女性や家族の選択肢を増やして、出産の知識・意識を高める。</p>
<p>講評</p>	<p>分娩施設を独自に調査し開示する本事業は、先行例も少なく、先進性・社会性が評価された。また、地元の事件を機に問題意識をもって設立された市民団体である当団体が新しく本事業に取り組むことは、新規チャレンジ性がある。</p> <p>本アワードは子育て支援をより幅広く捉え応援してきた経緯があり、子育てを妊娠期から考え、その中でも分娩施設に着目した独自性が高い本事業は、新設したはぐくみ賞の助成に適った内容である。進め方や資金計画などに粗さがあるため、より綿密な計画にしてもらい実現性の高い事業として欲しい。</p>

■NPOクワガタ探検隊（大阪）／8万円

「集まれ！都会っ子・未来の森の守り人」

<p>団体概要</p>	<p>大阪北西部に残されたかけがえのない自然（里山・原生林）の荒廃を体感し、1993年に活動をスタートし、2009年に特定非営利活動法人の認証を受けた団体である。日本古来の自然観〈共生・畏怖・感謝〉を活動の基調として、多くの子ども達に対して「本物の自然の原体験」を提供している。</p> <p>主な活動は、大都市・大阪の里山・原生林の四季変化とそこに生息する昆虫の生態を体験する自然探検活動を軸に、地元産のクワガタ虫を家庭で飼育し元いた自然に帰す里親飼育活動、創作絵本の読み語り活動を展開している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、地域での自然イベントやクワガタ虫里親事業に、子どもスタッフが主体的に関わることを通して“未来の森の守り人”を育成するものである。</p> <p>具体的には、①自然体験活動、②里親飼育活動、③自然に関する創作絵本を制作して読み聞かせる活動によって、受身で自然観察をする子から、自らスタッフ活動が出来る子どもを育てる。自然との原体験のない子ども達に命の大切さを伝える粘り強い実践によって、行政や地域コミュニティからの協力も得てきた結果、近隣市にも活動が発展してきている。</p>
<p>講評</p>	<p>自然体験の活動として、20年間で232回の活動を実施している本事業は、社会性と実現性を評価した。また、規模は大きくないが、地域で地道に同じ活動を継続してきた経過と実績は、はぐくみ賞の創設の意義と合致している。</p> <p>本アワードの助成を機に、地域との関係をさらに深めてもらおうと共に、定型化している活動から次の展開が生まれることや、新しい形の人材育成にもつながることを期待したい。</p>

- 特定非営利活動法人 学校図書館木質・活性化支援センター（奈良）／10万円  
 『温もりの絵本体験』～無垢の木の肌触りを活かした温かな読み聞かせ～

団体概要	<p>子ども達は、本と出会い、本に親しむことで想像力あふれる心豊かな人に育っていくと考え、子どもが本と接する学校図書館をふるさと奈良の県産材で木質化しようと、2013年に設立された団体である。</p> <p>主な活動は、コンクリートなどの無機質な環境に置かれている学校図書館を木のぬくもりを感じる快適な空間にして、読書などの活動で子どもの学びを応援している。その際に、奈良県産材の積極的な活用をすることで、林業の活性化や販路拡大も目的としている。さらに、読書環境を充実させる活動として、読み聞かせボランティア・木材生産者・学校の教職員などのネットワーク化を進めている。</p>
事業概要	<p>本事業は、吉野杉による可動式の空間を作成し、県内のスーパーや幼稚園・保育園などを巡回する絵本展を実施するものである。</p> <p>具体的には、①地元の建築家によって約10畳程度の杉・ヒノキで木質化した空間を設計、②吉野材を使って床パネル・書棚を作成、③スーパーのイベントホールや幼稚園・保育園で巡回の絵本展を開催する。木の香りのする空間での読み聞かせによって、豊かな心の育成と親子のふれあう機会を作るとともに、大きな工事を必要としない木質化の実現することで、公共施設などへの広がりを目指している。</p>
講評	<p>地元産の木材で木質化した空間を作り絵本展を開催する本事業は、その先進性が評価された。また、移動して活動を展開できる点で創意工夫があると共に、効果と発展性も見込める。さらに、森林組合・木材協同組合や行政とも連携しており、共感と市民参加の面も評価できる。</p> <p>活動経験が浅いが、はぐくみ賞の助成によって応援とするので、実現性や資金計画を今後は磨いてもらいたい。そして、地域との関係をさらに深め、次の展開にも広がることで、厳しい現状の産業・地域の再生にもつながる効果を期待したい。</p>

■ 給食人サークル（京都）／10万円

「まちのきゅうしょくしつ」

<p>団体概要</p>	<p>保育園の給食室で働いてきたメンバーを中心に、2010年特定非営利活動法人フォーラムひこばえのサークルとして設立され、2013年に独立した団体である。経験を活かして、離乳食の時期・方法、乳幼児食の作り方などを通して地域で親子と関わり、子育てをもっと楽しく、気楽にしていけるよう子育て支援をしている。</p> <p>主な活動は、離乳食や小さな子どもの食事・おやつなどを実際に作って、一緒に食べさせながら、作り方や食べさせ方をアドバイスする「まちのきゅうしょくしつ」である。その他にも、親向けの料理教室や学習会を開催している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、「まちのきゅうしょくしつ」の取り組みを知らせて安定した運営をするために、リーフレットの作成と学習会を開催するものである。</p> <p>「まちのきゅうしょくしつ」の開催場所を増やすためには宣伝が必要であり、リーフレット作成と学習会をすることで、応援者を増やし息の長い活動となることを計画している。「まちのきゅうしょくしつ」は、一人ひとりに丁寧に接するため安心感があり、他の母子とのつながりもでき、食べること以外の育児相談も気軽にできる場所として評価を得ており、活動を広げることでより多くの親子を支援する。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、保育園の給食室で働いていたOBや現役職員による食をテーマにした非常にユニークな事業であり、先進性・社会性が高く評価された。そして、本アワードの助成によって、これまでの活動が前に進むために、地道ながらも着実な企画がなされており、実効性・資金計画の妥当性の面でも評価は高い。</p> <p>はぐくみ賞は小さな団体の一步を応援することを目的としたものであり、本事業はふさわしい内容といえる。多くの親子からの要望に応えられる体制を作ってもらい、これからも長く地域で活躍して欲しい。</p>

■ news さのキッズ (大阪) / 10万円

『みんなで子育て』地域で子育ての輪を広げよう！

～『news さのキッズ』で一步踏み出す勇気を～

<p>団体概要</p>	<p>行政や地域が主催する子育て支援事業は増えているが、情報は多岐に渡り、子育てしながら必要な情報を集めることは容易でない課題がある。当団体は、泉佐野市の子育て関連情報を一冊にまとめ提供することで、孤立する子育てから一步踏み出すきっかけとなることを目的に、2009年に設立された団体である。</p> <p>主な活動は、「news さのキッズ」を子育て中のボランティアで制作し、年4回・1000部を発行し、公共施設や病院などに設置している。さらに、子育て支援講座などを企画・開催することで、親が参加するきっかけづくりを行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、情報誌の制作を核としながら、人と人・人と地域をつなげ、みんなで子育てできる環境をつくるために、新しく3つの交流企画を行うものである。</p> <p>具体的には、①着られないけど捨てるのはもったいない子ども服を集め、必要な人につなぐイベントの「おさがりリサイクル」、②初対面でも話しやすい食事をしながらの交流で子育ての仲間作りを応援する「同じ釜の飯トーク」、③地域密着型子育て情報誌のより良い誌面づくりのための「子育て情報誌制作団体交流会」の開催を内容としている。この複合的な3つの交流企画の実施によって、地域での子育ての輪を広げることをねらいとしている。</p>
<p>講評</p>	<p>地域の子育て情報誌を作ってきた当団体が新たに交流企画を実施する本事業は、創意工夫と実現性の面で高く評価された。個々は目新しい企画ではないものの、情報誌づくりで得た行政や他の団体との協力関係に基づいて考えられたものであり、地域における自然体での効果と発展の可能性も大いに感じることができる。</p> <p>これまで予算もなく活動してきた団体を育む面でも本アワードの助成の意義を感じ、今後の活躍・継続を期待してのはぐくみ賞としたい。</p>

■ どんこの会（滋賀）／10万円

「どんこ塾」

<p>団体概要</p>	<p>当団体は、「地域の子どもは、地域の大人で育てよう」と、地域のおじいちゃん・おばあちゃんが2008年に立ち上げた団体である。自分達が長年培ってきた“農業”に関わる経験や知識を、様々な活動として提供している。</p> <p>主な活動は、外で遊ぶ機会や農業に接することが少ない子ども達に対する農業体験である。田畑に入り土に触れ、文字通り“どんこ”になりながら、自分達で育てた農産物を採取し、食す出来事を印象付ける事業とすることを狙いとして、子ども同士の異世代・異年齢交流を図っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子どもの心身の育成や興味・関心のきっかけづくりを目的とした「どんこ塾」と題する年に5回の農業体験活動を実施するものである。</p> <p>具体的には、春の農機具を使わない昔ながらの手作業による農園での田植え・さつまいもの苗植えから、秋の収穫までを子ども達と行い、食卓にご飯として並ぶまでにかかる手間や苦勞について事業を通じて体験する。その他にも、収穫した米を東日本大震災の被災地にある小学校に届けたり、紫蘇ジュース作り方の講習会などを実施して、活動のマナー化を防ぎ、オリジナリティ溢れる活動を行っている。</p>
<p>講評</p>	<p>地域の農業経験者による農業体験活動である本事業は、実現性が評価された。また、農業というきわめて地域性の高いテーマを切り口に、地元のシニア世代が子ども達の成長を応援する活動に取り組むことは、地域文化の継承や次世代育成の面でも大きな価値がある。</p> <p>はぐくみ賞の助成を機に、今まで以上に地域の垣根を超えた活動を積極的に展開してもらい、子ども達や保護者・地域ボランティアとのコミュニケーションづくりの場としての役割を発揮して欲しい。</p>

■ 山田の里グリーンクラブ（兵庫）／10万円

『山田の里・学習の森』オープン

<p>団体概要</p>	<p>当団体は、兵庫県主催の「ふるさとひょうご創生塾」の卒業生有志が森林環境学習のボランティアを目的に2003年に設立された。生活様式の変化により利用・活用されなくなった「里山の景観」を保全し、稲作文化と共に培われ育まれた「里山の文化」を復活・体験することをミッションとしている。</p> <p>主には、枯木の除去や下草刈りなどの里山林の整備と、田畑の開墾や整備による棚田の復旧・再生を通常活動とし、小学生の環境体験学習や中学生の「トライやる・ウィーク」受入、幼稚園でのグリーンガーデン事業などの活動も行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、里山の景観が残っている総面積1500坪の活動地「山田の里・学習の森」で年間40日の整備・保全を行い、あわせて学校での環境体験学習を年間20日行うものである。</p> <p>住宅地・商業地に隣接する山田の里は、緑豊かな山並みに囲まれているが、里山林は放置され荒廃が急速に進んでいる。その里山林の整備・保全や遊歩道の整備を行うことで、地域の園児・児童・生徒の環境体験学習のフィールドとして利用・活用できるようにすることをねらいとしている。</p>
<p>講評</p>	<p>地域の環境学習サポーターとして実績を積み重ねてきた当団体による、里山保全と環境体験学習である本事業は、実現性が評価された。特筆すべきは、他の環境団体や自然・環境に熟知した人材との強固な協力関係であり、総合力により学校の依頼に応えられる体制が整っており、共感と市民参加の度合いが高いことにある。</p> <p>地域における里山保全と環境学習が上手くミックスしている好事例であり、はぐくみ賞の助成としてふさわしいと言える。福祉施設など学校以外の環境体験学習も想定しており、今後はより幅広い層の参加がなされることを期待したい。</p>

(50音順)